

金曜 ライフ・楽しむ

シニア世代を応援するページです

平成30年 文化・芸術まだまだ元気

わたし色

生活情報誌「悠悠と。」

編集長・真鍋康利さん



ただいたりして楽しい時間を過ごしました。

知人の会社のカレンダーを作るお手伝いをしています。これまででは西暦の後に「平成〇年」と入れていましたが、今回は省くことにしました。

元号がどうなるのか不明でカレンダー業界は苦労しているようですが、オリジナル版のため自由度は高いのです。即位の日の5月1日、そして他の祝日との間に挟まれる4月30日と5月2日、また即位礼正殿の儀の10月22日は休みとなるようですが、黒字のままにしました。

昭和生まれの人間としては1989年のあの日、「平成」と発表される前後のワクワク感と「あれっ?」と感じたことが忘れられません。アルファベットの頭文字が明治以降の元号M、T、S、Hと重ならないよう配慮されると言われ、どうなるのか楽しみです。しかし、こうしてみると今後は西暦表記が一般的になるかもしれませんね。

今年、1869年に北海道と命名されてから150年の節目。この機会に歴史を振り返り、現在位置を確認し、未来へどうつなげるかを考えていきたいものです。

平成30年という切りのよい数字だからでしょうか、今年、私の周りでは周年記念の

祝賀会が続きました。それぞれ感謝の気持ちと満足感にあふれていました。

つい先日も創立30周年を迎えたある出版社のパーティーに参加しました。「嗚呼!三十年……誕生会」と銘打たれた会は、大通公園を見下ろすさっぽろテレビ塔で開かれました。書籍離れ、出版不況と言われている中、なんのなんの大勢がお祝いに駆けつけ、大にぎわい。文学界、美術界、経済界、映画界、マスコミ関係、印刷・出版関係など錚々たる顔ぶれがそろっていました。私は隅っこでうろろしているばかりでしたが、懐かしい顔に出会えたり、いろいろの方に引き合わせてい

また二次会は美術界の重鎮についていき、美術の世界のモロモロや札幌国際芸術祭などをテーマにした熱い議論を聞かせていただきました。いずれの会でも「北海道の文化・芸術の世界、まだまだ元気!」を感しました。

出版社の女性社長、過去の周年行事では感極まって号泣するのが恒例ですが、今回は吹っ切れたのか終始笑顔。創立時代からの写真が紹介され、当たり前のことながらその若さに驚きました。

最後に夢である自社ビルのイメージ図が紹介され、なんとトランプタワーそのもので笑いました。完成の暁には「地下でも隅っこでもいいので居候させてね」とお願いしておきました。